

20周年記念事業No.11の「中庭のウッドデッキ貼り替え工事」は、2月11、13、14日に実施を予定。現在のような板ではなく植物由来の木質材を使用。耐久性に富み、美観が一新。経費は約160万円。

# からはし通信

2021.1.27

No.25

発行 社会福祉法人 唐橋福祉会 編集兼発行人 理事長 下村 勉

## 5年後に 園児定員20名削減めざす

### 第79回理事会が決定

社会福祉法人唐橋福祉会は、1月18日の第79回理事会で「園児数を徐々に減少させ、現在135名の園児定員を5年後に115名に削減する」という計画を決定した。当園は、創立以来「待機児童解消」のために毎年、定員を大幅に超える園児を受け入れ、2度にわたって定員増を行い、園児を増やしてきたが、キャパオーバーの中で深まる保育の困難を解決するため、初めて「園児削減・定員減」にカジを切り直すことになる。そして、「ゆとりのある保育環境」の中で、「質の高い保育」をめざす。

#### 創立以来の「あいあい」の定員と実際の園児数

年度	定員	園児数	年度	定員	園児数	年度	定員	園児数
2001年度	90名	95名	2008年度	90名	119名	2015年度	90名	115名
2002年度	90名	104名	2009年度	90名	116名	2016年度	120名	130名
2003年度	90名	112名	2010年度	90名	112名	2017年度	120名	132名
2004年度	90名	110名	2011年度	90名	111名	2018年度	120名	130名
2005年度	90名	115名	2012年度	90名	111名	2019年度	135名	138名
2006年度	90名	117名	2013年度	90名	109名	2020年度	135名	133名
2007年度	90名	116名	2014年度	90名	112名			

園児数はその年の最大人数。2016年、増築して30名定員増。2019年、こども園移行で15名定員増。

20世紀初頭の2001年4月1日、大津あいあい保育園は定員90名に92名の園児で創建された。以来、ずっと地域の保育ニーズに応じて、上表のように定員オーバーの園児を受け入れてきた。ついに2015年度、定員の128%に及ぶ状況となった。それでも地域には入園できない待機児童があふれる状況のため、新園、分園の建設などを検討したが、最終的に1億2千万円を投じた「園舎増築・定員増」に踏み切った。翌2016年度から30名の定員増で120名定員となった。さらに、2019年度には、認定こども園に移行するために15名増の135名定員になって、一層多くの子どもを受け入れる体制を作った。

しかし、もともと90名定員で設計された園舎で135名の園児を受け入れることは、さまざまなひずみを生んだ。「諸行事が園全体で行えず、2部制にしなければならない」「園児は増えたが園庭やホールの広さは変わらない」「クラス当たりの人数増加で部屋が狭くなった」な

ど、保育困難が広がった。増築や職員の増員では解決しない問題に直面した。

## 各園が定員増 新園続々 受け皿は急拡大

一方、これまで市内の各民間園は、「待機児童解消」のために、下記のような様々な方法で定員を増やし、受け皿を増やしてきた。当園が開園した当時の23園全てがこの20年間に下記のような様々な方法で定員増を行った。いくつもの方法を複合的に実施した園も多い。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ①園舎を増築せずに、定員を増やした。5園 | ②園舎を増築して定員を増やした。15園 |
| ③新園を開設した。6園          | ④分園を作って定員を増やした。2園   |
| ⑤こども園に移行して定員を増やした。7園 |                     |

このほか、県外から進出してきた新園が33園あり、20年前には23園であった民間園が今や79園となった。総定員は2220名から7691名へと3.5倍の急拡大である。当園も、②と⑤の方法で待機児童対策に貢献した。すべての園が市の施策に協力してきた。

しかし、20年間に公立園は14園1480名から、14園1570名に微増(+90名)したに過ぎない。しかも、前市長の方針で、保育士が急速に削減されたため定員割れの公立園が続出している。

## 当園の周りに新園など10園が林立

このような民間園の急増の結果、当園の周りには、株式会社立の3園を含む10園が林立するようになった。このため、当園がこの地域の保育の中心的な担い手となって苦闘する必要はなくなった。当園が「大津で一番に入りにくい園」と言われた時代は過去のものとなった。

また、大津市全体の待機児童もほぼ解消が見込める状況となった。公立園が適正に保育士を確保して定員割れを解消すれば、大津の待機児童は全て解消する。この状況に鑑みて当園は、今こそ「無理のない保育環境」「適切な園児数」の実現に向けてカジを切る時だと判断する。

ただ、現在在園する園児数を急激に削減することはできない。「毎年、新入園児を適正規模に抑えることにより徐々に園児数を減らしていき、定員もこれに見合った数に削減していく」ほかない。「園児を増やすことは簡単、しかし減らすことは困難」である。「無理のない削減」を数年かけて、息長く追求していく必要がある。

## 5年かけ徐々に園児削減・保育充実

理事会の決定は、「5年後に115名程度に園児数を抑え、定員も20名減の115名に削減する」が目標である。(内訳は、1号児15名、2・3号児100名、合計115名)

現在のところ、市内には当園以外に定員減を求める園はなく、市当局も「今しばらくは、これまで通りの積極的な園児受け入れ」を期待し、定員減にも否定的である。しかし、保育を充実する立場から、定員減を求める現場の声に理解を示してもらいたい。

また、保護者のみなさんにも十分にご理解をいただく必要があることは言うまでもない。ご意見やご質問など、ぜひお寄せいただきたい。

(解説) 保育園の定員と実際の園児数は必ずしも一致しない。定員は市の認可事項であり、簡単には変更できない。一方、実際の園児数は保育ニーズに応じて変動する。待機児童が多いと定員をオーバーした入所が行われる。逆にニーズが低下して園児数が定員より少なくなってもすぐには定員減が認可されない。「定員割れ」を何年か続けなければならない。定員割れ状態では、保育園を運営するための交付金が園児数に応じて減額され、園の財政が苦しくなる。